

標準型のカリキュラム〈学習の内容・目標と評価の観点〉

第3学年

第3・4学年①

◎めあて



心を開いて友達のことを知り、材料をたのしむ

試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する

形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う

学期	時間	指導要領	めあてと重点活動	題材名	学習の内容	評価の観点	主な材料・用具	小・中一貫の視点
1学期・20時間	2～4時間 教科書8・9ページ	表現(2) 絵	絵の具遊びから思いついたことをかいてたのしむ	絵の具と水のハーモニー	<p>☆心を開いて友達のことを知り、材料をたのしむ題材である。</p> <p>ここでは、自分の好きな色を水彩絵の具でつくり、画面に思いのままに筆をふるうことで、かくたのしさを味わう内容である。</p> <p>かくことで生まれる手の動きや筆の跡、点や線、面などの形や色、強弱などの筆致で生まれるリズム、水を加えることで生まれる色やにじみの変化などのおもしろさなど、紙に向かって自分の表したい感じや思いついたことを大胆にかくことをたのしむ。</p>	<p>関：自分の感覚を大切に、水彩絵の具で形や色をかく快さを味わう。</p> <p>発：好きな形や色、筆でかく快さなどから思いを広げて、表したい感じなどを考える。</p> <p>創：形や色、筆触の違いなどから様々な感じを生み出すことを工夫する。</p> <p>鑑：自分や友達の活動のよさやおもしろさに気づき、認め合う。</p> <p>【共】 水彩絵の具で様々な色をつくるを通して、形や色の組み合わせをとらえ、自分の表したい絵のイメージをもつ。</p>	<p>教師：画用紙、(発展として段ボールやロール紙)、太筆(発展として刷毛)、バケツ</p> <p>児童：水彩用具一式、タオル</p>	<p>低学年の共同絵の具から、中学年になって初めて個人用の絵の具を使った題材である。</p> <p>パレットへの絵の具の出し方、筆洗の使い方、筆の使い方やしまい方、後始末までしっかりと指導する。</p> <p>以後、中学校に至るまで、絵の具の扱いについては正しい使い方や後始末をすることが、自分の思いを表現し、実現することにつながるので、繰り返しの指導が不可欠である。</p>
	2時間 教科書10ページ	表現(1) 遊	たくさんつくった細長い紙で、くふうして活動する	長い紙、つくって	<p>☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。</p> <p>ここでは、いろいろな切り方で細長い紙をたくさんつくり、それらの長さや量、触り心地などを感じ取りながら発想を広げ、思いついた活動をたのしむ内容である。</p> <p>自分の体に巻きつけたり、身近な空間に造形的に働きかけたりすることにより、机上の活動では得られないダイナミックな活動をする。子どもたちなりの遊び方、材料や空間への働きかけ方を工夫するようにする。</p>	<p>関：細長い紙をたくさんつくり、その特徴を生かして遊ぶことをたのしむ。</p> <p>発：細長い紙の量や感触、空間の特徴などから活動を思いつく。</p> <p>創：切る、つなげるなど、思いに合わせて用具を活用する。</p> <p>鑑：自分や友達の活動のよさやおもしろさに気づき、認め合う。</p> <p>【共】 細長い紙をつなげたり、貼ったりする行為を通して、つなげた形や色の組み合わせなどの感じをとらえ、自分のしたい活動のイメージをもつ。</p>	<p>教師：セロハンテープ、カッターマット、粘着テープ、(脚立)</p> <p>児童：古新聞紙、広告紙、包装紙、はさみ</p>	<p>身近な紙を使って、長く次々に切ってはつないだり、結んだり、くくりつけたりして空間をつくり変える活動である。</p> <p>低学年での体験を生かしながら、中学年では、友達と協力し合って、そのダイナミックを生かした活動にしたい。紙を切る、つなぐなどの一つ一つの行為は低学年と同じでも、場所や空間への働きかけなどがダイナミックになってくる。</p> <p>こういった活動では、できる限り全身を使って中学年のパワーを発揮させたい。</p>

1 学期・20 時間	4 時間 教科書 11 ページ	表現 (2) [工]	 紙ねん土の色の組み合わせを生かしてつくる	カラフルねん土のお店へようこそ	☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。 ここでは、軽量紙粘土に絵の具を練り込み、柔らかな色調の粘土をつくる。その材料の持ち味をたのしみながら発想を広げ、飾るものや使うものなど、思いついたものを自由につくることをたのしむ内容である。 つくりながら見つけたおもしろさを伝え合ったり、つくったものを交換したり、互いにやりとりすることをもたのしい。	関：紙粘土に絵の具を練り込み、質感や色調などの美しさ、おもしろさを味わう。 発：絵の具を練り込んだ紙粘土の色調から想像を広げ、つくりたいものを考える。 創：色の組み合わせや用具の使い方などを工夫して、つくりたいものをつくる。 鑑：お店を開いたようなつもりで、互いのつくったものを紹介し合うなどして、よさを味わう。 [共] 紙粘土に絵の具を混ぜ込んでできたカラフル粘土から、形や色の組み合わせをとらえ、自分のつくりたいもののイメージをもつ。	教師：紙粘土（軽量紙粘土）、粘土べら、粘土板、延べ棒 児童：水彩用具一式、保湿用のぬれタオル、ビニル袋、思いついた用具	軽量の紙粘土にいろいろな絵の具を練り込んで色をつけ、それらの色の組み合わせや形を工夫して活動する題材である。 自分で色をつくり出し、色を組み合わせ、成形するという造形活動の基礎であるが、比較的扱いがやさしい紙粘土なので、いろいろな技法を試すよい機会である。また、友達と交換して、色数を増やすなどの交流もでき、材料の交換によって表現の幅を広げられることを知るよい機会ともなる。
	2 ～ 4 時間 教科書 12 ページ	表現 (2) [絵]	 たのしかった休み時間のようすを絵にかく	わたしの休み時間	☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。 ここでは、休み時間に自分たちが遊んでいる様子を思い浮かべ、自分や友達の動きや大きさなどの様子がよく表れるように絵に表す内容である。 毎日、遊んでいる休み時間の中で特に印象に残った出来事など、表したい場面をいろいろ考えるようにする。 カラーペンやクレヨンなど、比較的容易にかける描画材料を用いて、何枚もかきながら表したいものを広げてかく。	関：自分が休み時間に遊んだ経験の中で、自分の心の中に残ったことを思い浮かべることがたのしみ、その様子が表れるように進んでかく。 発：休み時間に経験したことから表したいことを思いつき、人の動きや画面の中の大きさを考える。 創：水彩絵の具やカラーペンなどの扱いを試みながら、表し方を工夫する。 鑑：友達がかいている過程を見ながら、表したいテーマや表し方の工夫に関心をもって見る。 [共] 休み時間に遊んだことを思い浮かべて、自分や友達の形や色をとらえ、それをもとに、自分のかきたい絵のイメージをもつ。	教師：八つ切りか 16 切りの画用紙、画板 児童：水彩用具一式、タオル、カラーペン、パス、クレヨン	生活の場を発想の原点としてかく絵画題材である。モチーフとしては自分の生活の中での出来事を思い出してかくということがねらいである。 1・2 下で動物と自分の絵をかいたが、ここでは自分と友達が登場することになる。人物の動きや人物のいる空間のとらえ方は大事な表現要素であるが、この段階では試しながら表すことを大切にしたいので、画用紙の大きさ、形は子どもの表したい内容によって自己選択させたい。そうした経験を積むことで、定形の画用紙内にも構成を考えて、自分の思いを表せるようになっていく。
	2 ～ 4 時間 教科書 13 ページ	表現 (2) [工]	 タイヤをつけると走り出すしくみを生かして、うごくおもちゃをつくる	タイヤをつけて出発進行！	☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。 ここでは、身近な材料にタイヤをつけて走り出すしくみを生かして動くおもちゃをつくり、走らせてたのしむ内容である。 動くとき意外なものを考えて走らせるような発想の広がりを期待したい。	関：タイヤをつけて動かしてたのしむことに興味や関心をもつ。 発：動く様子や材料の特徴などからどんなものが動くかたのしか考える。 創：車軸やタイヤのつけ方や材料を工夫して、よく走るようにつくる。 鑑：友達の作品や発想のたのしさなどに関心をもち、一緒に動かして遊ぶ。 [共] タイヤをつけて動くしくみから、思いついた形や色の組み合わせを考えて、自分のつくりたいおもちゃのイメージをもつ。	教師：目打ち、カッターマット 児童：身近材料、はさみ、接着剤、テープ、ペットボトルのふた、段ボール、紙粘土、竹ひご、洗濯ばさみ	動くおもちゃをつくる系列の題材である。低学年では、動くものを利用して、その動きをたのしく見せる飾りを工夫してきたが、中学年では動く仕組み自体も製作する。 また、タイヤをつけることで動き出す、意外なものを発想することも、中学年の大切な視点となる。

学期	時間	指導要領	めあてと重点活動	題材名	学習の内容	評価の観点	主な材料・用具	小・中一貫の視点
1学期・20時間	2時間 教科書 14・15 ページ	表現 (2) 立	 ねん土をほったり、けずったりしながら、思いついたものをくふうしてつくる	ひみつのねん土王国	<p>☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。</p> <p>ここでは、約4kgの粘土の塊を2～3人のグループで掘ったり、削ったりしながら発想を出し合い、表現を広げていくことをたのしむ内容である。</p> <p>粘土の特徴を生かし、その触り心地を味わい、掘ったり、削ったりしながら生まれた削り跡や、掘り跡にできた模様などに触発されながら、想像力豊かに活動を展開する。</p>	<p>関：粘土の感触を味わいながら、自分の感覚や友達の感覚を生かしながら、粘土とかかわることに興味や関心をもつ。</p> <p>発：粘土の感触から生まれる様々な形からイメージを広げ、友達と話し合いながら、自分らしい形や削り跡を見つけ合う。</p> <p>創：粘土の重量や形から構造を工夫したり、削り跡の模様を生かす工夫をしたりする。</p> <p>鑑：自分たちがつくった形についてよさや違いに気づき、互いに認め合う。</p> <p>【共】 友達とグループで粘土の感触を味わいながら、掘ったり削ったりする操作をすることで、できる形や色のおもしろさをとらえ、つくりたいもののイメージをもつ。</p>	<p>教師：粘土（2～3人に4kg）、粘土板、粘土べら</p> <p>児童：タオル</p>	<p>共同制作による粘土の活動である。低学年では、一人1kgの粘土で活動したが、中学年では共同で4kg程度の大きな塊で活動する。力を合わせて、粘土の塊を練ったり、形づくったりする。</p> <p>友達と共同して大きな粘土に向かうことで、様々な技法のアイデアが生まれたり、一人ではできない活動にチャレンジしたりできる。</p> <p>この経験が上級学年になったときに、大きな粘土の塊に向かう自信と意欲につながっていく。</p>
	2～4時間 教科書 16 ページ	表現 (2) 工	 は「中」に思いついたものをくふうしてつくる	小さなこのものがたり	<p>☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。</p> <p>ここでは、牛乳パックを半分くらいに切った大きさの中に、紙粘土や身近な材料をもとに自分の想像した世界を工夫しながら表す内容である。</p> <p>複数個つくって季節の移り変わりを表したり、一つの箱を一つの部屋に見立てたりして、組み合わせを工夫したりする活動も可能である。</p>	<p>関：半分に切った牛乳パックの中に世界を表すことに興味や関心をもつ。</p> <p>発：半分に切った箱の空間に材料を工夫しながら、表す世界を想像する。</p> <p>創：箱の組み合わせ方を工夫したり、材料の使い方を工夫したりする。</p> <p>鑑：箱の中を友達と見せ合ったり、自分の工夫したところを話したりして、互いのよいところを認め合う。</p> <p>【共】 箱の中に自分の感覚を生かして表したい形や色、組み合わせなどの感じをとらえ、これをもとに自分のイメージをもつ。</p>	<p>教師：紙粘土、カッターナイフ、両面テープ</p> <p>児童：牛乳パック（数個）、カラーペン、身近な材料、接着剤、はさみ、セロハンテープ</p>	<p>同じサイズの箱の中に、想像した世界を展開する題材である。箱を使った工作題材としては、低学年では箱を材料として使い、そこからイメージを広げて、バッグをつくったり、家をつくったりしたが、ここでは箱を材料として、その限られた空間の中に自分だけの世界を閉じ込めていく活動となっている。</p> <p>中学校のボックスアートにつながっていく題材である。</p> <p>中に詰める材料としては、低学年でも扱った紙粘土や紙、布切れなどを生かして使っている。</p>

1学期・20時間	4時間 教科書17ページ	表現(2) Ⅱ	 <p>トレーシングペーパーや色セロハンを使い、 光とかけのうつくしさを生かしたかざりをつくる</p>	<p>光と色のファンタジー</p> <p>☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。</p> <p>ここでは、色セロハンを通した光がトレーシングペーパーによって柔らかく美しい感じになることを知り、光と影の美しさを生かした飾りをつくる内容である。</p> <p>具体的な活動として、まず厚紙か空き箱にトレーシングペーパーを貼ってスクリーンをつくり、片面段ボールや透明なシートで好きな形をつかって断面接着をする。次に、その上に光の効果を考えながら色セロハンをつけたり、ビーズなどを入れたりする。光を通すことで微妙に変化するおもしろさを感じながら表現を高めていく。</p>	<p>関:トレーシングペーパーや色セロハンなどがつくる光と影の美しさやおもしろさを生かして、飾るものをつくることをたのしむ。</p> <p>発:紙テープや色セロハンの形や色の組み合わせを考えて、飾りを構想する。</p> <p>創:自分なりのイメージになるように材料を試してみたり、つくり方を変えたりして工夫する。</p> <p>鑑:自分や友達の表し方の共通点や違いを見つけながら、共感して見たり、自分の表し方に取り入れたりする。</p> <p>[共] 光を透過する材料の特徴を生かし、形や色の組み合わせを考え、つくりたいもののイメージをもつ。</p>	<p>教師:厚紙、片面段ボールかTPシート、色セロハン、トレーシングペーパーか和紙、カッターナイフ、カッターマット</p> <p>児童:空き箱、定規、接着剤、光を透過するときれいと思われる身辺材料、はさみ、鉛筆</p>	<p>光を透過半透明の飾りをつくる題材である。低学年では、透明の袋や容器を生かした飾りをつくったり、和紙を貼った飾りをつくったりしてきたが、その系列の題材である。</p> <p>光を透過美しさを感じて、それを効果的に生かすように活動するやや高度な内容となっているが、上級学年になると、ランプシェードをつくったり、光、明かりの製作へつながったりしていく。</p> <p>接着は細い断面になるので、化学接着剤でちゃんと接着できるよう、指導が必要である。</p>
2学期・24時間	2時間 教科書20・21ページ	表現(1) Ⅲ	 <p>みちかにある場所で、しぜんのまじりょうを 使って、くふうして活動する</p>	<p>いつもの場所です…</p> <p>☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。</p> <p>自然材料や身近な場所とのかかわりを通して、自然材料を試したり、場所のよさを見つたりする内容である。選んだ場所や自然材料の形や色、大きさや量、材質などを生かしながら活動を進める。場所や材料に働きかけ、そこから感じたものをもとに、さらに工夫して活動を深める。</p>	<p>関:身近な場所や自然材料に関心をもって、思いついた活動をたのしむ。</p> <p>発:自然材料や身近な場所にかかわり、それら进行操作したり、構成したりする方法を考える。</p> <p>創:広さや起伏など活動する場所の特徴や自然材料の形や色などを生かして、工夫して活動する。</p> <p>鑑:自他の考えや自然材料や場所を生かした活動のおもしろさを味わう。</p> <p>[共] 自然の材料の感触、形や色をとらえ、それをもとに、してみたい活動のイメージをもつ。</p>	<p>教師・児童:草や木、枝など自然の材料</p>	<p>身近な自然材料を使って、並べたり、積んだりする活動は低学年から経験しているが、中学年では、材料だけではなく場所も生かして活動するということが高度である。</p> <p>身近な自然材料や場所を発想の出発点とすることは、上級学年になっても大切にしたいことである。</p>


学期	時間	指導要領	めあてと重点活動	題材名	学習の内容	評価の観点	主な材料・用具	小・中一貫の視点
2学期・24時間	2～4時間 教科書 22 ページ	表現 (2) [絵]	 光をはんしゃする紙を使って、組み合わせをくふうしてはり絵にする	ようこそ、キラキラのせかいへ	☆ 試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。 光を反射する材料の美しさから想像を広げ、貼り絵にする内容である。あらかじめ子どもたちに身のまわりにあるキラキラ光る材料を集めさせておく。集めた材料の美しさや形からイメージを広げ、物語的、空想的、装飾的に平面的な世界として表現していく。	関：光を反射する材料に興味をもち、それらを生かした表現をたのしむ。 発：キラキラ光る材料の形や色からイメージを広げ、自分が表現したいものやことを思いつく。 創：キラキラ光る材料の組み合わせや重なり、形や色、触感を生かした表現を工夫する。 鑑：キラキラ光る材料を生かした各自の表現の特徴やよさ、違いなどに気づく。 【共】 キラキラ光る材料の特徴から、形や色の組み合わせをとらえ、自分の表したいもののイメージをもつ。	教師：アルミホイル、カラーホイルテープ、厚紙、台紙、化学接着剤、画板 児童：金色や銀色などを使った包装紙や色紙、その他キラキラ光る材料、はさみ	様々な材料をコラージュしていく題材である。 デザインの、装飾的に材料を貼っていく内容で、低学年では、シールなどを貼っていく経験をしているが、中学年では貼りにくい紙を使うところが高度になる。化学接着剤の使い方をよく指導しておくとうい。
	2時間 教科書 23 ページ	鑑賞	 話し合いながら、いろいろなさわり、こちのちがいを見つける	タッチ、キャッチ、さわりのこち	☆ 心を開いて友達のことを知り、材料をたのしむ題材である。 ここでは、触った感じの違う材料を持ち寄り、同じ種類ごとに台紙に並べて貼り、その触り心地の違いを見つけ、触り心地の違いの仲間見つけをしていく内容である。 触った感じについて友達と話すことによって、互いの感じ方の違いに気づいたり、材料の質感のよさやおもしろさを見つかけたりする。	関：自分たちが集めた材料を互いに触り、その触り心地の違いに興味や関心をもつ。 発：材料に触った感じたことから自分なりのイメージを思いつく。 創：材料の質感がより感じ取れるような並べ方や貼り方を工夫して表す。 鑑：触り心地を通して、材料の質感の違いや友達との感じ方の違いに気づく。 【共】 自他の触覚感の違いを通して、形や色、組み合わせなどの感じをとらえ、これをもとに自分のイメージをもつ。	教師：台紙（約10 cm 四方に切った画用紙、または色画用紙）、接着剤、カッターナイフ、カッターマット 児童：はさみ、触り心地の異なる身近材料	自分たちの作品を見合い、お互いに話し合うことで、友達の考えと同じだったり、違ったりすることをたのしむ相互鑑賞の題材である。 自分の感じたことを言葉にして発表したり、友達の発表したことを聞いたりする態度を身につけさせたい。

2学期・24時間	2時間 教科書 24 ページ	表現② Ⅰ	 くぎをうつたり、木切れをうちつけたりして、たのしくつくる	くぎうつペン	☆心を開いて友達のことを知り、材料をたのしむ題材である。 ここでは、枝や木切れ、板などにくぎを自由に打つことをたのしむ内容である。 くぎを打つことのたのしさに十分に浸らせることを大切にしていくなかで、くぎを打つことに慣れ親しませたい。かなづちを用いてくぎを打つことによって生まれるリズムカルな音や手ごたえを感じながら、木の材料とかかわり、くぎを打つたのしさを味わえるようにする。表したいことに合わせてほかの木片や身のまわりの材料を打ちつけたり、組み合わせたり、ひもを巻いたりなどして、自分の考えたものを表現していく。	関：くぎを打つことのたのしさに浸りながら、つくるたのしさを味わう。 発：木切れなどにくぎを打ちつけながら、発想されるイメージを生かしてつくる。 創：くぎを打つことに慣れ親しみ、表したいことに合わせて、くぎの打ち方や組み合わせ、飾りのつけ方などを工夫して自分の考えたものを表現していく。 鑑：自分の活動を紹介したり、友達の作品や題名からそのよさやおもしろさを感じ取ったりする。 【共】 くぎを自在に打つ活動から、くぎを打ちつける形や色の組み合わせを考えて、自分のつくりたいもののイメージをもつ。	教師：枝木、木片、板、くぎ数種、かなづち 児童：木片、板、身辺材料、水彩絵の具一式、タオル	木を材料とした工作であり、初めてくぎとかなづちを使うことになる。 ここでは、まず木にかなづちでくぎを打ちつけることに慣れるように、いろいろなくぎを打ち込むことをたのしませたい。最初から何か作品づくりをねらうと、くぎ打ちに慣れることが不十分に終わってしまう。確実に習得することで、上級学年になったときに、思いに合わせた表現が確実にできるようになる。 くぎ、かなづち、くぎ抜きの扱いは、中学校美術、技術まで使用する。
	4時間 教科書 25 ページ	表現(2) Ⅱ	 絵をかく 色のぬり方をくふうして	しょうかいします、わたしのだいすき	☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。 ここでは、自分の好きなものを友達に紹介するつもりで、自分の大好きなものをたのしみながら絵の具でかく内容である。 絵をかくことより、大らかに自分の好きな色を塗って表すことを大切にする。いわゆる「ペインティング」の方法で塗る心地よさを味わう。	関：自分の感覚を大切に絵の具を塗り重ねながら、心を開いてかくことをたのしむ。 発：好きなものの形や色、感じなどから表したいイメージを思いつく。 創：好きなものの形や色を筆使いや色の組合せを工夫して表す。 鑑：それぞれ表現の違い、その特徴やよさに気づく。 【共】 絵の具を塗る感覚や活動を通して、形や色、組み合わせなどの感じをとらえ、これをもとに自分の表したいイメージをもつ。	教師：画用紙（四つ切りあるいは八つ切り）、画板 児童：水彩絵の具一式、タオル	絵の具による表現は、低学年でも描画材として共同絵の具を使う経験をしてきている。また、その他の描画材としては、クレヨン・パス、マーカーなども経験しているが、ドローイング的に描いてきたことが多い。 しかし、この題材では、意識して下がないしにペインティング的な絵の具の扱いを行いたい。筆の腹を使った描き方など、上級学年になったときに、筆の思いに合わせて扱うためにも、是非体験させておきたい。
	4時間 教科書 26 ページ	表現(2) Ⅲ	 ぬめの手づくりなどの組み合わせを生かしてつくる	くつ下や手ぶくろにまほうをかけると	☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。 ここでは、靴下や手袋などの布の材料の特徴を生かして思いついたものをたのしみながらつくる。身近にある靴下や手袋などの布製品に新聞紙などを詰めたり、ひもなどで結んだりして、材料に魔法をかけたように形を変えていく。 造形的な操作をすることで形が変わっていくことに関心をもちながら、材料を組み合わせで自分の好きな形をつくる。 できた形に水で薄めた木工用接着剤を塗ったり、液体粘土をぬったりして固めることもできる。	関：靴下や手袋などの材料の形が変わっていくことに関心をもちながらたのしくつくる。 発：靴下や手袋に新聞紙などを詰めたり、ひもなどで結んだりした形からイメージをふくらませて、自分の気に入ったものをつくる。 創：材料の形を変えたり、組み合わせたりをいろいろ試みながら、材料を生かして自分の好きな形をつくり、これに思いついた飾りをつけるなどの工夫をして表す。 鑑：身のまわりの布製品が作品に变身したことのおもしろさや活動のよさに気づき、自分や友達の工夫を感じ取る。 【共】 布を造形的に操作する活動から、形や色、組み合わせなどの感じをとらえ、これをもとに自分の表したいイメージをもつ。	教師：木工用接着剤、液体粘土、化学接着剤、針金ハンガー、モール 児童：身のまわりの布製品（軍手、靴下、古着など）、ひも類（毛糸、リボンなど）、輪ゴム、新聞紙、ボタンやおはじき、はさみ、接着剤	身の回りの布製品を素材とした立体をつくる活動である。 低学年では、箱を利用して動物をつくったり、透明容器を利用する経験をしたりしている。この題材では、平面的な元の形に詰め物をして立体につくり上げる活動で、造形的な操作によって形が変わることを体験する内容である。 上級学年の液体粘土を利用して、平面を立体作品に仕上げていく経験へとつながっていく。

学期	時間	指導 要領	めあて と重点 活動	題材名	学習の内容	評価の観点	主な材料・用具	小・中一貫の視点
2学期・24時間	4時間 教科書 27 ページ	表現 (2) Ⅰ	 やわらかい色いりようを使って、 かざるものをつくる	ふわふわさんのかざり	☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。 ここでは、綿や毛糸などの柔らかい材料を集め、見たり、触ったりしたときの特徴を生かして、材料の組み合わせのおもしろさや美しさを自分なりに試みながら、飾りを工夫してつくる内容である。 いろいろな柔らかい材料を集め、つくりたいものやどこに飾るかななどを考えながら、厚紙などの台紙に貼りつけたり、箱などを利用して立体的につくったりする。	関：綿や毛糸などの柔らかい材料を組み合わせ、いろいろなつくり方を試みながら、飾りをつくることをたのしむ。 発：柔らかい材料を見たり、触ったりした感じから発想を広げて、つくりたい飾りを考える。 創：材料の色や形、材質感の組み合わせの美しさやおもしろさを生かしながら、つくり方を試みる。 鑑：自分や友達の作品の表し方のよさに関心をもって見る。 【共】材料の感触や特徴から、形や色、組み合わせなどの感じをとらえ、これをもとに自分のつくりたいもののイメージをもつ。	教師：接着剤、段ボール、カッターナイフ 児童：紙箱や紙コップなど芯になりそうなもの、綿や毛糸、スポンジなどの柔らかい材料、はさみ	飾るものを制作する工作の系統の題材である。 低学年では、紙の材料で飾りをつくる体験してきているが、綿などのふわふわ感のある材料での制作は初めてになる。ここでは、ふわふわした材料の接着と着色のしかたの経験を大切にしたい。 紙以外の素材の接着や着色は上級学年でも必要であり、中学校にもつながる経験となる。
	4～6時間 教科書 28・29 ページ	表現 (2) Ⅱ(絵・版)	 あつ紙などをつかったはんを使って、 いろいろなうし方をくふうする	はんで広げたゆめ	☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。 ここでは、厚紙や身近にある材料を使って版をつくり、写し方を試しながらいろいろな表し方を工夫していく内容である。 また、版をつくったり、写したりすることから想像を広げ、自分なりに表現を追求していくようにしたい。	関：版をつくったり、写したりすることに関心を持ち、いろいろな表し方をたのしむ。 発：版をつくったり、写したりすることから想像を広げ、お話を構想する。 創：写すことを繰り返しながら、材料や色の組み合わせ、写し方を工夫する。 鑑：自分や友達の発想のおもしろさ、表現のよさや工夫を味わう。 【共】版をつくって写す活動を通して、版の形や色の組み合わせをとらえ、これをもとに自分の表したいイメージをもつ。	教師：スポンジローラー、版画インク、インク板、版画用紙、厚紙 児童：身近材料（ひも、ネット、毛糸、布など）、はさみ、接着剤、新聞紙	版に表す系統の題材である。低学年では、スタンプング、こすり出し、モノプリント、型押し、型紙版画と経験してきていることにつながっている。 紙や雑材による版づくりの基礎はこの学年までに、何枚も刷れるよさを十分に味わい、上級学年の木版や彫り込み版画などにつなげていきたい。

3 学期・16 時間	2 時間 教科書 30・31 ページ	表現 (2) 絵	 「自分マーク」をもとにまんがをかく	まんがで「ー」！ ☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。 ここでは、自分マークを主人公に、複数の画面(4コマ、8コマ)に物語をカラーフェルトペンなどでかく内容である。 「4コマ」か「8コマ」かは、子どもに選択させても、どちらかに決めてかかせてもよい。「8コマ」の場合は、必ずしも8コマで物語をまとめるということではなく、各自の表現の終わりを自由に。用紙を複数枚使ってもよい。「4コマ」の場合は、起承転結など、物語を4コマでまとめるようにする。あらかじめコマワリを印刷した用紙(4コマ・8コマ、A4・B5)を配布すると、子どもたちは表現に集中できる。	関：複数の画面を使ってかく表現に興味や関心をもつ。 発：「自分マーク」を主人公に、複数の画面をつなげて表現する物語を思いつく。 創：思いついた物語を複数の画面に簡単な絵でかいたり、言葉を添えたりしてまとめる。 鑑：「自分マーク」を主人公にした漫画を相互に見せ合い、それぞれの表現の特徴、よさやおもしろさを見つけ合う。 [共] 自分の感覚や活動を通し、自分マークを主人公に、形や色、複数の画面の組み合わせなどの感じをとらえ、物語的なイメージをふくらませる。	教師：A4・B5用紙(4コマ・8コマ用紙) 児童：鉛筆、カラーフェルトペン	自分のマークをつくるということをテーマにした、発想を生かす題材である。 低学年から高学年にわたって、自分のマークを主人公とした絵をかくことで、発達段階に応じた発想の広がりを経験していく題材である。
	2 時間 教科書 32 ページ	表現 (1) 遊	 だんボールばこを使って、みちかな場所であそんで活動する	だんボール ☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。 ここでは、材料としての段ボール箱や場所から感じたり考えたりする造形的な活動を通して、工夫して活動するたのしさを味わう内容である。 いろいろな形や大きさの段ボール箱を重ねたり並べたりするなど、体全体でかかわりながら材料に親しむ。材料や場所のよさから思いをもったり、友達と話し合ったりしながらつくる。今までの経験を生かし、用具を選ぶなどして、工夫しながら思いを広げたりつくり変えたりする。自分の活動を見直したり、友達と話し合ったりしながら、いろいろな表し方のよさやおもしろさを感じる。	関：段ボール箱や活動している場所から感じることをもとに活動する喜びを味わう。 発：材料や場所から得たイメージをもとに、自分のやりたい思いをもったり、活動しながらつくり方を考えたりする。 創：活動する場所のよさや今までの経験を生かしながら、材料を積み重ねたり、組み合わせたり、つないだりするなど工夫してつくる。 鑑：材料や場所のよさを感じ取ったり、自分や友達の活動を見合い、それについて話し合ったりしながら、表し方のおもしろさや感じの違いがわかる。 [共] 活動をする場所に合わせて段ボールを重ねたり、並べたりする行為を通して、形や色の組み合わせや自分でしたい活動のイメージをもつ。	教師：段ボール箱、段ボールカッター、粘着テープ 児童：段ボール箱	中学年のスピード感やエネルギーを生かした段ボールによる造形遊びである。 段ボールカッターを使用するにしても、細かく切り刻むというよりも、大きな段ボールに全身でかかわっていくことを大切にする題材である。 この経験をもとにして、段ボールを切ったり、つないだりして、より造形性を追及する3・4下の「だんボール、切って、つないで」につながっていく。

学期	時間	指導要領	めあてと重点活動	題材名	学習の内容	評価の観点	主な材料・用具	小・中一貫の視点
3学期・16時間	2～4時間 教科書33ページ	表現(2) 工	 上をすすむおもちゃをつくる	パタパタわにさん、 クロールにちょうせん	☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。 ここでは、水に浮く容器にゴム動力を取りつけ、水をかいて進むおもちゃづくりをたのしむ内容である。	関:ゴムの動力を生かし、水をかいて進むおもちゃづくりに興味や関心をもつ。 発:動く様子や材料の特徴などから、どんなものが動くか、たのしいのかを考える。 創:竹ひごやアルミ線、ゴム、容器などの取りつけ方を工夫して、よく進むようにつくる。 鑑:友達の作品や発想のたのしさなどに関心をもち、いっしょに動かして遊ぶ。 【共】 水に浮いて動く様子から、思いついた形や色の組み合わせを考えて、自分のつくりたいおもちゃのイメージをもつ。	教師:太い竹ひご、アルミ線(3mm)、輪ゴム、ビニルテープ、耐水性の塗料、化学接着剤、ペンチ 児童:牛乳パックやペットボトルなどの容器、装飾用の材料(水で溶けないもの)	仕組みを生かして動くおもちゃをつくる系統の題材である。 低学年では、紙を主材料とする工作で、動きを生かしてどのようなおもちゃを発想するかに重点が置かれていた。中学年では、水に浮いて、かつ水の中で動くという仕組みをつくり、動きを生かしたおもちゃをつくるという、課題が高度になっている。水に浮かぶためにはどのような接着をしたらよいかなど大切になってくる。 6学年を通して、水に浮くおもちゃの題材はここだけであるので、しっかりと経験させたい。
	2～4時間 教科書34・35ページ	表現(2) 絵	 思いついたのりものをかく	ふしぎなのりもの	☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。 ここでは、身近なものを乗り物に見立てることから発想を広げ、自分の表したいことを見つけてかくを通して、材料や用具の特徴を生かしながら表すたのしさを味わう内容である。 身近にあるものが乗り物になったことを想像しながら、表したい思いをもつ。材料や用具の特徴を生かし、表し方を工夫しながら考えてかく。 自分たちの作品を見直したり、友達と話し合ったりしながら、いろいろな表し方のよさやおもしろさを感じる。	関:身近なものから想像をふくらませ、自分の思いを表すことをたのしむ。 発:身近なものから得たイメージをもとに、自分のかきたい思いをもったり、用具の生かし方を考えたりする。 創:自分の思いに合わせて、今までに経験した表し方を生かしたり、材料や用具を工夫して使ったりしてかく。 鑑:自分や友達の作品を見合ったり、それについて話し合ったりしながら、表し方のおもしろさや感じの違いがわかる。 【共】 身近な形から不思議な乗り物を思い浮かべて、思い浮かべた形や色をもとに、自分の表したい乗り物のイメージをもつ。	教師:画用紙、発想のもととなる身近なもの 児童:水彩用具一式、クレヨン、カラーペン、はさみ、のり	個人用絵の具による題材であり、「しょうかいします、わたしのだいすき」の次の題材である。前題材で体験した面描や、線描などの筆の使い方を生かして、さらなる定着を目指して取り組ませたい。 テーマとしては想像画であるので、イメージや想像を広げる方法も教科書のヒントを参考に経験させたい。 こうしたイメージの広げ方を経験していくことで、上級学年での想像画や、中学校美術での心の世界を描く題材などにスムーズにつながっていく

3 学期・16 時間	4 ～ 6 時間 教科書 36 ・ 37 ページ	表現 (2) Ⅱ	 空想のせいかから思いついたものを くふうしてつくり、みんなでかざる	みんなのゆめが広がって	<p>☆心を開いて友達のことを知り、材料をたのしむ題材である。</p> <p>ここでは、材料を工夫して自分の表したいものを、つくり方を工夫してつくり、友達と協力してネットにつるして飾る内容である。</p> <p>自分のつくった夢に登場する様々なものをまわりの友達の夢の世界と飾り方を調整したり、協力したりしながら夢の世界を表してたのしむ。</p>	<p>関: 自分のつくりたいものを材料やつくり方を工夫してつったり、友達と協力し合いながら一つの世界を表したりすることに興味や関心をもつ。</p> <p>発: テーマに合わせ、自分の表したいものやことを思いつく。</p> <p>創: つるしたときの感じを考えながら、材料や表し方を工夫してつくる。</p> <p>鑑: 友達の表現の違いや、その特徴やよさに気づき、みんなの夢を集めたことのたのしさを感じる。</p> <p>【共】 空想の世界を想像し、その形や色、材料の組み合わせなどを試しながら、それらをもとに、自分のつくりたいもののイメージをもつ。</p>	<p>教師: 画用紙、色厚紙、竹串（ネットに掛ける仕組み）、ネット（農業用防虫ネット約2m×約 10m・児童一人 40 cm 四方 30 人分）</p> <p>児童: 色紙、カラーペン、モールなど身近な材料、のり、はさみ</p>	<p>総合的なかかわりを大切にする内容であり、この学年までに経験してきた材料や技能を総動員して活動するまとめの題材である。</p> <p>友達と協力してつったり、個々に製作した作品を一つにまとめて展示したりすることで、個々の作品だけではない広がりをもった世界が生まれることを体験できる。</p> <p>造形によるつながりを実感できる題材で、これが上級学年における共同制作や共同でのアートプロジェクトなどにつながる基礎の体験となっていく。</p>
------------	--------------------------	-------------	---	-------------	---	---	--	--

頁	指導 要領	題材名	学習の内容	主な材料・用具
教科書 2 ～ 4 ページ	鑑賞	小さなびじゅつかん	<p>巻頭の「小さな美術館」では、各学年の子どもたちの興味・関心にあわせた作品を掲載するだけでなく、それぞれの作品について鑑賞の観点のうちの一つを吹き出しで入れた。また、1 ページ大で扱う作家作品を必ず取り上げ、教室での鑑賞資料として十分に対応できるようにした。</p> <p>ここでは、「いいこと考えたよ!」というサブタイトルで、自分で思うようにやってみることをテーマに、自分らしい表現方法の工夫、独自の表し方をした作品を掲載した。</p>	
教科書 6 ～ 7 ページ	鑑賞	ゆめをかたちに	<p>子どもたちがその学年で出会う材料や表現方法を使っている作家の作品と子どもたちへのメッセージである。</p> <p>ここでは、人形作家の安部泰輔さんに登場していただき、思い出の服の布地を生かしてつくる作品の魅力を子どもたちに呼びかけるような文で語ってもらった。</p>	
教科書 18 ・ 19 ページ	表現 (2) 工	ひらめきコーナー	<p>☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う活動である。</p> <p>ここでは、紙を折ることによって簡単にできる紙工作の動くおもちゃを提案している。また、紙コップや紙皿を簡単な加工によってできる動くとしたのしいおもちゃも掲載した。</p>	<p>教師: 色画用紙、色厚紙、紙皿、紙コップ、化学接着剤、はと目、はと目パンチなど</p> <p>児童: 色紙、はさみ、接着剤など</p>
教科書 38 ～ 40 ページ	鑑賞	みんなのギャラリー	<p>暮らしを豊かでたのしいものにするために造形が果たす役割は大きい。そのために、子どもたちに関心がもてそうな行事や祭り、イベントなどを紹介している。</p> <p>ここでは、「みんなでいっしょに」「でんとうのわざを学ぶ」「教室をとびだして」「むかしからのおもちゃ(伝承玩具)」の四つのテーマでくくっている。</p>	

教科書 41 〜 43 ページ	表現 (2) [絵] [工]	道具箱・ パレット コーナー	<p>道具は、造形活動においては、材料とともになくてはならないものである。子どもたちも自らの思いを実現させるために、道具の正しく合理的な使い方を知ることは大切なことである。そのための手引きのページである。また安全指導では「あんぜん」のコーナーを設けた。ここでは、かなづち・げんのう、くぎの使い方について掲載した。木工をするときに活躍する道具であるが、いろいろな学習や活動の場面で使われるので、繰り返し活用し、自分の手のように扱えるようにしたい。</p> <p>「ざいりょうはたからもの」では、材料を集める一つの視点として、「みのまわりでいらなくなったもの」を提案している。</p> <p>また、「パレットコーナー」では、筆、パレット、筆洗の基本的な使い方を示している。</p>	
教科書裏表紙	鑑賞	つながる造形 友だちといっしょに	<p>「つながる造形」をテーマに、各学年に応じて、情景写真や授業写真などを掲載し、図画工作科からつながっていく、あるいは、広がっていく内容を掲載している。ここでは、「友だちといっしょ」のサブタイトルで、みんなで活動することによって、表し方や感じ方の広がりを期待している。</p>	